

【雑誌ビッグイシューの仙台販売者 鈴木太さんのミニコミです】

ハッピー通信（2011年3月31日東北大震災特別号）〈今回特別紙面です〉

頑張ろう東北のその意味について考える。

3月11日に発生した大震災については今更ここでのべる事もない程、それぞれの生活権を非常に大きな形で失い、何をどう言って癒しになるのか？正直わからないまま、我々は四月を迎えようとしています。私の詳細な活動については別紙である定禅寺ジャーナルに掲載しましたが、今回私は初動一人災害派遣活動を行ない、テレビ、新聞が伝える以上の光景を目にしました。

確かに映像を見たり、ラジオや新聞で情報というのも、ある程度はわかるでしょう。しかし、その現場の色・匂いまではわかりません。どうしようもない空虚な気持ち・虚脱感・絶望感というのは、やはり単なる映像ばかりからはわかりません。

今回見た光景、恐らく私は一生忘れる事はできないでしょう。

正直、私はこんな光景など見たくはなかったです。それはこれを読んでいる人だけではなく、たぶん、今回の震災を経験した人全てが思うのではないのでしょうか。そして出来る限り忘れてしまいたい、そう思うかも知れません。

ですが、今回のような大変な出来事を私たちは忘れてはならないと思うのです。忘れないう事がこれから生きていく上での教訓（教訓というにはあまりにも大きな犠牲を払いましたが・・・）になり忘れない事が、それをきちんと次世代に伝えるという事につながります。

国・県・市町村を通じて今回危機管理の啓蒙活動の不備等が指摘されていますが、何よりこれだけ大きな災害というのを想定していた人等皆無だったでしょうし、今更ながら、自然に対する人間の無力さを私は思い知りました。

今回幸いな事に生き残った私達ですが、実は本当に大変なのが、今からです。沿岸部への物資、インフラの整備に加え、心身のケア等まだまだ足りないばかりか、表面的には大したダメージを受けてないこの周辺（青葉区・私の家の大町や県庁市役所周辺）に住んでいる人達も、3月11日以来、仕事が出来ず、それでも正社員の人達は何とかとしてもパート等や自営業になると稼いだ分しかお金が入りませんから、今回、もしくは次回の給料等恐らく悲惨な事になるはず。テレビでそうした人に対する支援の手だてうんぬんを言っていますが、雇用保険を使うにしろ、生活保護になるにしろ、面倒な手順がかかり、そのうちパンクする人がいったいどれ位になるのか？それに、そういう人達がハローワークにしろ、保護課にしろ、窓口で殺到する訳ですから、これ以上はどうなるかなんてもう私が書かなくてもわかるでしょう。

ですから、がんばろうんぬん以前の話で、いかにがんばれる状況を作れるか？が私達のこれからの道のりなんです。実際、今回の私の活動している中で、ため息をつくようにしてあのがんばろうというのは何だ・・・。あんまり簡単に言うなよ、と避難所で疲れ切った人達から何度も言われました。そうでなくても、今回の地震で大勢の人達が軽度のう

つ症状が出ています。うつの人にそうした言葉をかけるのは過度のプレッシャーをかけ、かえって良くないのは、阪神大震災でも（それ以外に対してでも）問題になっていたはずなのに、いったい誰が言ったのか、誰があちこちにベタベタ張ったのか知りませんが、本当に学習能力がないのは困ったものです。

市街地を歩いている人達を見ると、あの地震など私全く関係なかったかのような顔をしている人が私には多く見えました。立ち直りの早い人かも知れませんが、それなら良いのですが、、、。

----- 店長コラム「タイムリミットは明朝」 -----

今回の大地震でほとんどの人達が（あくまでこの周辺ですが）大変な状況になっている中、実は普段と変わらない人達がいまいました。ホームレス・およびホームレス OB の人達です。彼等は何しろ普段からあらゆる不便の中で生きていますから、避難所の屋根付きがあるだけで天国みたいなものだし普段以上に食べ物にありつけるから、楽勝だ、という人もいる位で、いたって普通に過ごしているのです。

ただ、これはある程度ベテランの人だから言える事で、今回の件を境にホームレスになった人達もたくさんいて、その人達に話を聞くと、最初のレポートで私が指摘したように、失職してアパートに居られなくなり、パンクしたんだ、と言うのです。もちろん、まだ路上生活の本当の大変さを知らない訳ですが、3月31日、今日までに今いる小学校の避難所を出なければならなくなったそうです。

それもついさっき言われた（この話は3月30日の晩聞いています）そうで、うちの四号店の岡本会長も激怒していました。自から望んでホームレスになった人は割合簡単にその生活に溶け込めますが、やむにやまれずなった人はまずしばらく落ち込み、食うどころか、寝る場所もろくに確保出来ず、この冬も一晩中歩いて寒さに耐えていた人を私も何回か見ました。加えて楽勝だ、等と言っていた人達もしばらく避難所で温かい生活をしていて、しばらくぶりで路上に出る訳ですから、本当に意味でこれからは正念場になるのです。明日はエイプリルフル。もし今の状況が全てウソならどんなに良いかと思いますが、現実には本当に甘いものではありません。避難所の立ちのきタイムリミットは明朝、あとは寒かろうが雨が降ろうが出るしかないのです。

店長 鈴木 太

ハッピー通信東北大震災特別号

ハッピー通信制作委員会

ハッピーパニック 2011.3.31